

## 岩村先生の紫綬褒章受章によせて

岡崎 廉治 (化学専攻)



この度本学大学院理学系研究科名誉教授の岩村秀先生が、有機化学における顕著な業績により紫綬褒章を受章されました。これは先生のこれまでの長年の研究の成果が認められたものであり、化学教室をはじめ、理学系研究科にとっても大変喜ばしいことで心よりお祝い申し上げます。

先生は、昨年本理学系研究科を停年で去られるにあたってこの理学部広報に寄稿されておられますので、まだご記憶の方も多いと存じますが、先生のご経歴を改めて簡単にご紹介いたします。

岩村秀先生は、昭和32年3月本学理学部化学科を卒業され、引続き本学大学院化学専門課程修士課程、博士課程を修了、理学博士の学位を授与されました。その後直ちに本理学部助手となられ、ついで同41年講師、同45年には助教となられました。この間、昭和42年から2年間アメリカのウィスコンシン大学の Zimmerman 教授のもとで  $C_8H_8$  異性体の光化学の研究を行いました。昭和52年12月分子科学研究所の教授に昇任され、9年半後の同62年6月に本理学部教授に帰任されました。本学での停年を迎えられる半年前の平成6年10月、九州大学基礎有機化学研究センター教授として転出され、昨年4月からは同センターのセンター長をしておられます。

学外においては、国際純正・応用化学連合 (IUPAC) 有機化学部会化学委員会委員、日本化学会副会長、日本学術会議化学研究連絡委員会委員などを務められ学会活動にも大きな貢献をしておられます。

岩村先生のお仕事は先生が本理学系研究科化学専攻で担当しておられた研究室の名称「物理有機化学研究室」が示すように物理化学の手法を活用した有機化学の研究ですが、大変幅広い分野で数多くの優れた業績を挙げ

られ、また分子科学研究所時代も含め、多くの優れた研究者を育成されました。先生の最初のご研究は博士論文となった「水酸基と  $\pi$  電子の分子内相互作用の研究」であり、この成果により昭和38年日本化学会進歩賞を受賞されました。その後 NMR を物理有機化学的に活用するお仕事でいつも関連分野の先端をきっておられました。CIDNP 法による有機ラジカル反応の研究もその見事な成果の一つと言えます。分子科学研究所に移られてからは、反応中間体であるカルベン、ナイトレンの研究を始められ、これが後に先生のライフワークとなる有機強磁性体の研究へと発展しました。カルベン、ナイトレン、ニトロキシドラジカルなどのスピンを活用し、従来有機分子には付与し得ないと考えられていた強磁性という物性を有機化合物に持たせようという研究は有機材料の新展開として現在国際的に注目を集めていますが、岩村先生はその世界的リーダーのお一人となっています。特に多くのカルベン中心の集積によるポリカルベンの磁性に関する研究は他の追随を許さない独創的なものとして高い国際的評価を得ています。現在では、18個のスピスが平行にそろったノナカルベンさえも合成されています。これらの業績により平成4年に日本化学会賞を受賞しておられます。

最近ではさらに、磁性金属イオンの助けを借りたスピンの集積においても多くの興味ある成果を挙げておられます。例えば Mn イオンを活用し46 K という高い相転移温度をもつポリニトロキシドラジカルの合成に成功しており、これは磁性イオンと有機ラジカルから出来ている安定な錯体磁石の中で一番高い相転移温度をもつものとなっています。

岩村先生は現在九州大学有機化学基礎研究センター長として大変多忙な日々を送っておられます。有機化学基礎研究センターは、有機化学の基礎的研究を行っている全国の研究者の長年の夢である有機化学基礎研究所への発展を担う重要なセンターであり、その舵取り役としての先生への期待は大変大きいものがあります。また平成8年度にスタートした文部省の中核的研究拠点成形プログラム (COE) (課題「分子の集積・組織化の精密設計と機能制御」) の研究リーダーにもなっておられます。今後とも健康にご留意の上、益々ご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。